

## 「冬、夜読書」

ました。今年は、暖冬傾向だという事で雪が少なくピヤシリスキー場のオープンが延期されています

が、それでも外套を通り抜けるほどの冷気を名寄では感じていると思います。

雪が多く寒いとなるとネガティブなイメージが湧きますが、質の良い雪が多く降る名寄はウィンタースポーツを楽しむ多くの人に愛さ

れ、街中では除雪され続ける雪はスノースポーツツーリズムの重要な資源になっています。

大学では、年明けにスキーの授業があり、道内外から進学してくる学生に人気の授業となつています。一方この時期、卒業論文の締め切りや試験の勉強で各学科の4年生は朝から晩まで自習室や図書館

で勉強しているの

で、最終年度は名寄の雪を楽しむ余裕はないかもしれない

収めて 疑義を思う 一穂の青灯 万古の心」となっています。

しんしんと雪の降る山の住まいで書物を読んで考え事をして

時にふと、ろうそくを見るとその炎が昔の人の心を映し出してくれるみたいだという内容です。詩の表現から茶山は、本州でも名寄の様な雪深い地域に住んでいたのだからと想像できますが、



実際は備後国安那郡（現在の広島県付近）に住んでいたようなので少し降った雪を誇張して詩を書いていた様です。

で、茶山が想像した雪が降り積もる夜は本を読み勉強しながら、過去や未来に思いを馳せるのもいいかもしれません。

栄養学科助教

丸山洋介

12月になり雪が降り気温も下がってき